

JOCA

Kyushu Letter

Issue No.26



Japan Overseas Cooperative Association of Kyushu

特定非営利活動法人九州海外協力協会



梅雨の晴れ間の夜空に蛍が飛び交い、田圃では蛙たちが大きな声で語りあう季節になりました。半世紀前までは、田圃のある所では何処でも蛍が見られたように記憶していますが、高度成長時代から進められた国土開発の影響で生態系環境が破壊され、現在では限られた地域でしか蛍を鑑賞することができなくなりました。

環境破壊がもたらす自然への影響は日本だけでなく地球規模で拡大を続けています。特に人間の生活に不可欠な水不足が地球上で大きなテーマになっており、水不足によって亡くなる人が年間11億人、5歳まで生きられない子供が5億人もいます。この生活環境に恵まれない人達の役に立つ事業として「カンボジア命の水プロジェクト」をBOPビジネスとして当協会の法人会員である、株式会社輝水工業さんと赤石会員（協力隊カンボジアOB）の企画により立ち上げることができました。マダガスカルに続く海外での2番目の事業を手がけることができ、職員一同、気持ちを新たにしています。

事務局長 花田

「マダガスカル希少動物保護事業」調査報告

平成24年5月8日から20日まで、マダガスカル希少動物保護事業の現地調査を実施してきました。

今回の調査団は、北九州市公園管理課より2名と私の合計3名でした。ミッションの内容は、前回に引き続き協定書の更改、検疫施設の改修箇所の確認、捕獲動物や輸入予定動物の飼育状況と健康状態の確認を行いました。今回は、少し長めの滞在でしたので、現地のカウンターパートや関係機関との交渉も、柔軟に時間をかけてしっかりと話し合うことができました。

さらに、運良く滞在期間中に現地で日本人会があり、我々もご招待いただき参加しました。そこには大使館関係の方、JICA関係、民間企業、国連関係の職員とそこにご家族が参加されており、総勢80名ほどでした。マダガスカルにも多くの日本人が住んでいて、活躍されていることに少し驚きと感動を覚えました。

いまだに選挙が行われず暫定政権のままといった政情不安が続いており、国際的な支援もストップした状態です。人びとは、政治の混乱により長く続いている不況に疲弊しているようでした。今年の2月にお会いした環境森林大臣は今回更迭されており、当事業を進めていく上で少なからず影響が出ています。

このような状況下ではありますが、北九州市としては事業を止めることなく一歩ずつ進めています。輸入予定動物の輸入手続きも本格的に開始しました。また、捕獲・繁殖プログラムも進めていく予定です。このような状況だからこそ、自然環境を守り、動物を守る環境教育が非常に重要です。

一刻も早く正当な選挙が実施されることを期待しながら、事業はしっかりと進めていきたいと思えます。（田淵）



絶滅危惧種のエリマキキツネザルと





第8回九州海外協力協会通常総会開催

去る5月19日に当協会の通常総会をホテルコムズ博多にて行ないました。当日は九州各地から多くの会員の方々に足を運んで頂きました。14時から始まった総会は、昨年の事業報告・決算報告の審議を受けた後、今年度の事業計画・予算案の審議に移り、全ての承認を頂きました。今年度の事業計画では、新たにカンボジアでBOPビジネスを輝水工業株式会社さんと実施することになり、東京から来て頂いた代表取締役社長兼CEOの森一氏よりご挨拶を頂きました。また今年度より当協会の相談役として就任頂きましたムライケミカルパック株式会社代表取締役社長の村井正隆氏より、就任のご挨拶を頂きました。最後には昨年の9月に東日本復興支援の為に九州各地から集まった九州協力隊(専門学校生、大学生、社会人、元青年海外協力隊)の活動報告を団長福永職員から行ないました。今年度も新たな事業を含め、さらに前進していきたいと考えております。どうぞ皆様、本年度もご支援、ご協力の程、よろしくお願い致します。

(武井)



H24年度春 JICAボランティア募集説明会を終えて

毎年、年に2回開催されるJICAボランティア募集ですが、春の募集説明会が4月に終わり、九州全県の参加者は、青年514名、シニア206名でした。

私も協力隊に参加する前に、自分に何が出来るのだろうと不安を抱え、胸をワクワク、ドキドキさせながら募集説明会に足を運びましたが、地元のOB隊員から直接話を聞いたことがきっかけで、「協力隊参加の夢」が現実へと一歩近づいた日であったことを思い出します。言葉も文化も違う異国で様々な経験を積んだ私たちが、夢を持ってJICAボランティアに憧れる一般の方々の、言葉や任地での生活、活動要請などに関する不安や疑問を少しでも解消し、参加への橋渡しになれるように努めたいと思っております。そして、現在もより多くの方々が説明会に参加してもらえよう、次回説明会に向けて模索と改善を行っております。

(福永)

「F-coop環境助成金」活動報告会

このJOCA kyushu letterでも何度かご紹介していましたが、当協会では昨年度、エフコープさんより助成金をいただき国際交流イベントを行なってきました。今回はその報告会ということで、5月19日(土)に福岡県の篠栗にありますエフコープの研修センターへ行ってきました。当日は、2011年度に助成を受けた15の団体が活動報告を行ないました。環境助成金ということで、自然に関わりながら活動している団体が多いですが、中には「おもちゃ病院」をボランティアで運営している団体や、病院内のプランターなどを整備するフラワーボランティアをしている団体など、リサイクル活動や生活環境と植物とをつなげる活動をしている方たちもいました。もちろん当協会の活動は、国際交流と環境教育を合わせた活動を唯一している団体ということで、多くの団体や、報告を聞きにいらしていた市民の方々に興味を持っていただくことができました。

(田中)



福岡ダービー観戦 @「レ・ベ・ス・タ！」



「6月9日(土)はレベスタに集合すべし！」ということで、福岡県OB会を中心に、サッカーJ2に所属している「アビスパ福岡 vs ギラヴァンツ北九州」の福岡ダービーを観戦しに行きました。

この企画は、協力隊OBであり、アビスパ福岡代表取締役専務をされている下田さんの提案で実現。当日は、協力隊OBはもちろん、その友人や留学生など約30名が集まり、それぞれに生のサッカー観戦を楽しみました。アビスパを応援する方もいれば、ギラヴァンツを応援



される方も、「サッカー良くわかんないけど・・・」という方もいれば、南米派遣のOBは「スタジアムの雰囲気に向かって比べると平和だ。」なんていう方もいました。

現在、九州ではサガン鳥栖がJ1初昇格にも関わらず良い成績で戦っています。まずは地元のチームを応援しに生のサッカー観戦をしてみませんか？きっとテレビで見るのとは違った楽しみが見つけれられると思います。ちなみに、今回の福岡ダービーは1-0でアビスパの勝利でした。

次回の福岡ダービーは8月19日(日)にギラヴァンツのHOME本城陸上競技場で行なわれます。

(田中)



JICA研修員と保育園児との交流プログラム

JICA研修員との交流プログラムでは、毎年約30件程度、JICA九州に滞在する来日した研修員が北九州市内及び周辺の学校や施設等を訪問し、子ども達や地域の人々との触れ合いを通じて交流を行っています。6月7日は「母子保健」に関するコースで研修中の研修員4名と北九州市内の保育園児との交流でした。

最初、とてもきらびやかな中東の民族衣装での登場に、園児たちも先生たちも大喜び。「好きな色は?」「向こうの国では何をしているの?」「好きなアイスとクッキーの種類は?」と、可愛らしい子どもたちの質問に、研修員もつい顔がほころんでいる様子でした。折り紙やけん玉、パズルなどして子どもたちと遊び、とてもにぎやかで楽しい時間となりました。言葉なんて関係なく、グイグイと体を張って、研修員と打ち解けていく子どもたちの様子に、国際交流に大切なことを、改めて気付かされました。(森川)

身近な「食」から世界を考える

4月～7月の期間、JICA九州館内の図書館横のスペースで展示を行っております。特大のお弁当箱が目印です。今回のテーマは「衣」「食」「住」の第一弾として、「食」をテーマに展示しております。私たちに身近な「食」から、世界に興味が向く展示となっています。食料自給率から見えてくる、わたしたちの生活や先進国の食の問題点、また、世界の食の豆知識など、食に関するものが盛りだくさんです。世界各地の食卓の風景を紹介しており、日本の食卓と比べた時に、見えてくるものが色々あります。食料自給率がわずか40%の日本。何気ない普段の我々の食卓の風景にも、世界とのつながりがたくさんあります。日本の食文化・海外の食文化を理解し、さらに私たちの日々の生活を見直すきっかけになればと思います。

(森川)



山口県から高校生が 職場体験に来ました!

6月6日(水)から9日(金)まで、山口県から大津緑洋高校の生徒3名がJICA九州を訪れ職場体験を行いました。

今回の生徒は、将来国際協力の仕事につきたいと明確なビジョンと目標をもっておりとても意欲的、積極的でした。生徒には仕事の表から裏まで見てもらおうとさまざまなプログラムを用意しました。JICA職員や、元青年海外協力隊から開発の現場の話や直接聞いたり、広報のために500通の封筒の糊付けから清掃業務、フロント業務、図書館業務を体験したり、またJICA研修員の日本語教室に参加したりしました。

最終日は、時間がないなか3日間で学んだこと感じたことについてプレゼンテーションを職員の前で実施しました。少し緊張している様子でしたが、オリジナリティがあり、熱意あふれる素晴らしい発表でした。

3日間の研修を終えて、英語の楽しさや必要性を感じ、新たためて国際協力の道を目指したいと感想文を寄せてくれました。今回の職場体験の経験が進路を決める上で少しでもかれらの役に立ってくれたら嬉しいです。(田淵)

JOCA職員のお仕事紹介① (研修員の福利厚生)

北九州市八幡東区、九州国際大学の隣にあるJICA九州には、世界から多くの研修員が来日しており、日本が培ってきた技術を学び、帰国後、自国で活かせるよう研修を受けています。

そこで、私が担当となった「福利厚生」のシゴトとは、来日中のJICA研修員と地域の住民とが国際交流を通し、国際理解や協力への関心・理解を高めることと、文化、伝統などに触れていただき、日本のファンを増やすことであります。その一つの国際交流として、8/5に開催される北九州で一番大きな祭り、わっしょい百万祭りに全員お揃いの法被に身をつつみ、3度目の「ユーモア賞」獲得に向けて参加します! アジア・アフリカ・中南米など世界十数ヶ国の研修員と地域の方々とがOne worldになれるように影で支えて行きたいと思えます。(福永)

新任カウンセラー着任のご挨拶

今年の4月1日付けでJICA九州の青年海外協力隊進路相談カウンセラー(福岡・佐賀・長崎担当)に就任いたしました岡田です。私は以前、協力隊派遣事業に公務員の立場で関与しておりました。その際、出発される前の隊員にお会いし、また、帰国された同じ隊員とお話をしますと、わずか2年間の活動がこんなにも人間を大きく成長させるのかと驚かされ、当時からこの事業を高く評価しておりました。そのため、今回協力隊事業に携わることができ、大変嬉しく思っています。ただ、2ヶ月間カウンセラー業務をする中で、カウンセラーの責任の重さをひしひしと感じているところです。



岡田 弘明カウンセラー

2年間、任国で頑張ってきた多くの協力隊経験者の方にお会いし、お話をお聞きしたいと思います。今後の自分の進むべき道を決め、達成するためには多くの労力を必要とします。ご相談に応じますので、気軽にご連絡をしてください。皆様方が活動の中で得た知識・経験を生かされ、今後ともご活躍されますことをお祈りします。

岡田 弘明

特定非営利活動法人九州海外協力協会
〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3-10-34 Mビル3号館
2F AB号室
TEL: 092-415-6536
E-mail: ngogshuint@joca-kyushu.or.jp

NPO JOCA Kyushu 会員募集中!

当会の活動に御賛同いただける、団体・個人を募集しております。会員の方には「JOCA kyushuだより」を送付するほか、当会主催、共催のイベント情報をご案内させていただきます。

個人	正会員	3,000円	賛助会員	2,000円
団体	正会員	10,000円	賛助会員	10,000円
法人	正会員	30,000円	賛助会員	10,000円

※ご関心のある方は、当会までお問合せ下さい。

編集後記

すでに新年を迎えてから半年が過ぎてしまったんですね。「光陰矢の如し」という言葉がありますが、時間をうまく使っていくことが大切な気がします。日本では新年と年度初めと2回の節目があるせいか、1月～3月の間が、なんとなく過ぎてしまっている気がします。

そんな私も福岡に引っ越してきて5月で1周年を迎えました。縁があって福岡に来た訳ですが、JOCAの同僚や隊員OV以外にも知り合いが増え、楽しく過ごしております。海外はもちろんですが、日本国内でも、知らない土地で人や文化と繋がりを持つことを楽しませてもらっています。(田中)

発行 特定非営利活動法人九州海外協力協会

〒812-0011
福岡市博多区博多駅前3-10-34 Mビル3号館 2F AB号室
TEL: 092-415-6536
FAX: 092-415-6518
HP: <http://www.joca-kyushu.or.jp/>
E-mail: ngogshuint@joca-kyushu.or.jp

